

リサーチ TODAY

2017年3月29日

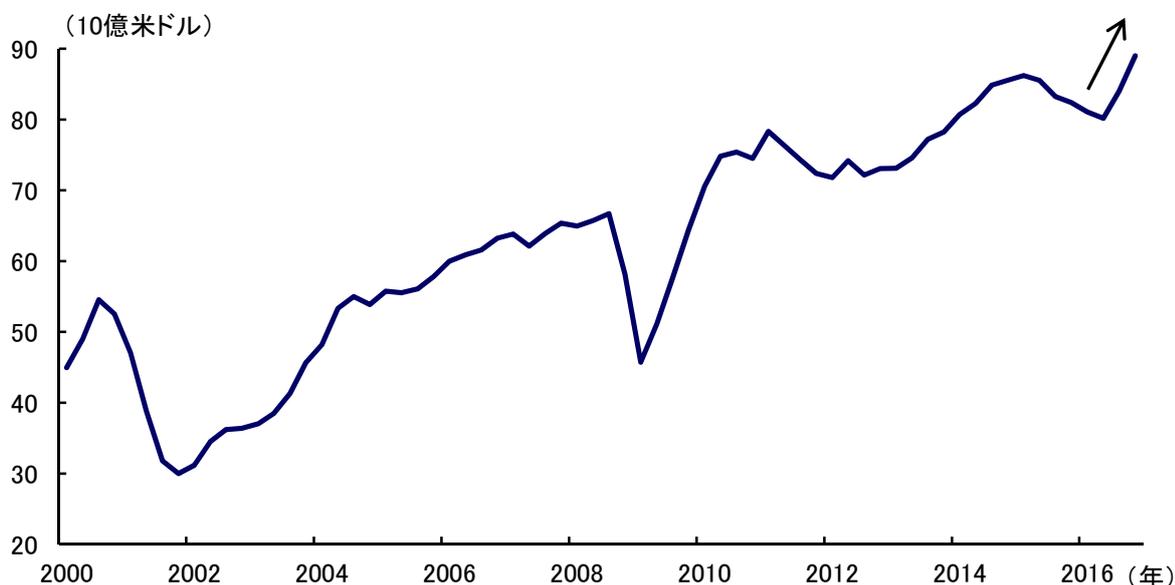
## 電子部品の出荷拡大は2年程度続く、鍵はスマホと中国

常務執行役員 チーフエコノミスト 高田 創

2016年後半以降、世界的な電子部品需要の回復に伴い、日本からの出荷も持ち直している。iPhoneの販売復調や新興中国メーカーのスマホ販売の拡大など、スマホ需要の復調が主因とみられる。みずほ総合研究所は、日本の電子部品の出荷拡大の持続性について検討したレポートを発表している<sup>1</sup>。世界経済の回復や新型スマホ製品の投入、過去の在庫循環のパターンからみれば、今後2年程度は日本の出荷拡大が続くと展望される。ただし、短期的には、iPhone販売の動向がリスク要因となる。一方、中期的には、車載及びIoT向け需要が下支えとなるものの、スマホ向け需要の減速から、電子部品出荷拡大ペースは穏やかなものに止まるだろう。また、中国の製造設備増強の動向にも留意が必要だ。

下記の図表をみると世界の半導体売上高は2016年後半から回復しており、電子部品需要が回復していることがわかる。

■ 図表：世界の半導体売上高

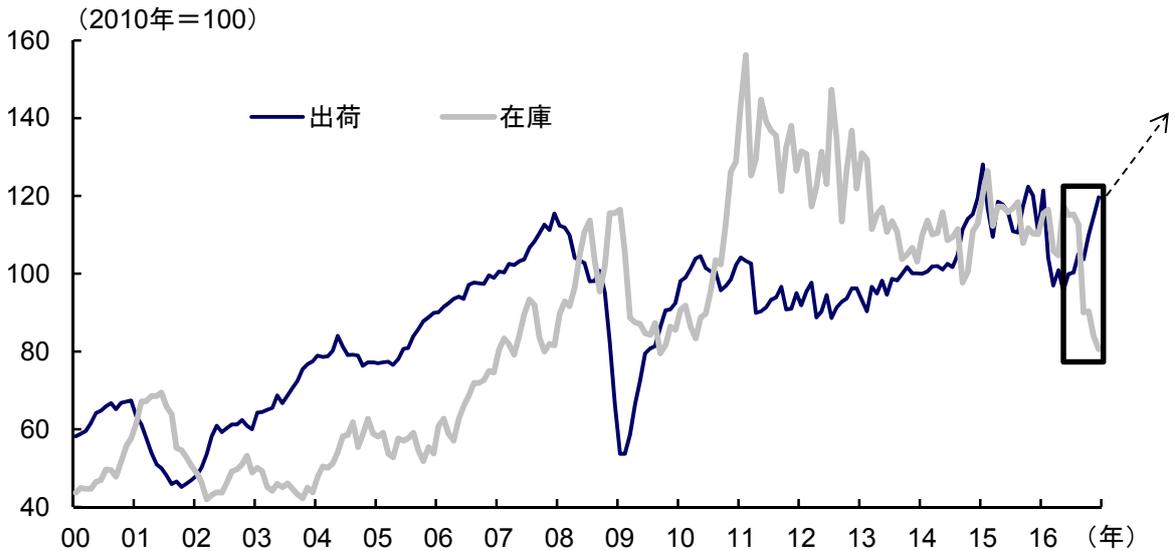


(注) みずほ総合研究所による季節調整値。

(資料) Datastream よりみずほ総合研究所作成

この世界的なITサイクルの好転を受けて、次ページの図表に示されるように、日本の電子部品出荷は2016年10～12月期に大きく改善した。在庫指数も2016年後半から急激に低下し、2009年以来7年ぶりの低い水準になっている。これは、出荷在庫バランスが改善し、在庫調整が大きく進んだことを示唆している。先行きについては、過去の在庫循環の傾向から単純に考えれば、2017年第1四半期から始まる新たなサイクルでは出荷の前年比が2年間程度プラスで推移すると展望される。

■ 図表：日本の電子部品・デバイス工業の出荷と在庫

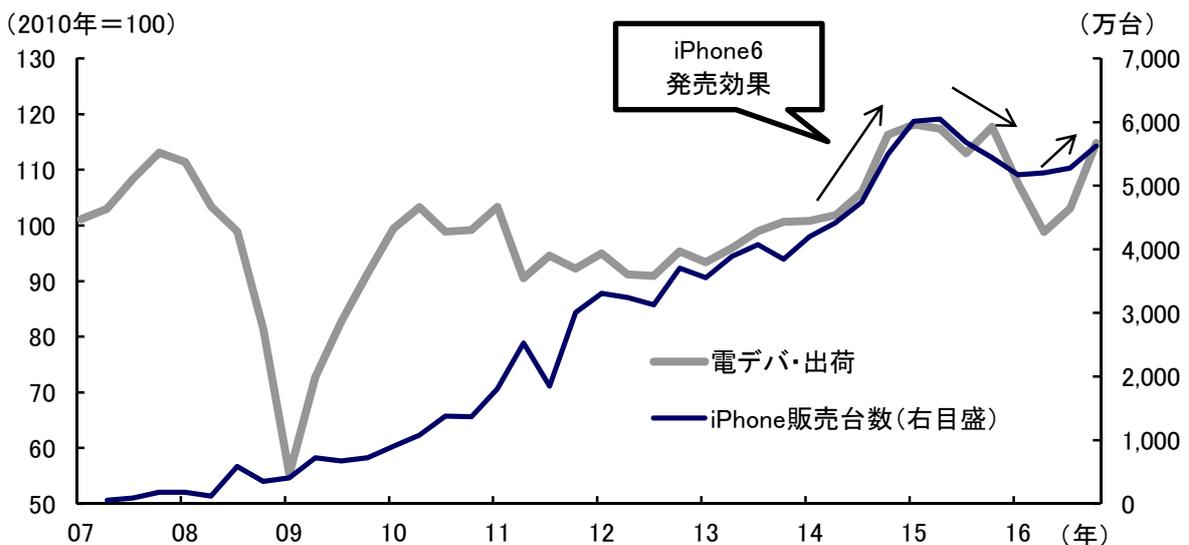


(資料) 経済産業省「鉱工業指数」よりみずほ総合研究所作成

下記の図表は、iPhone販売台数と日本の電子部品・デバイス工業の出荷である。近年、電子部品出荷とiPhone販売台数は連動する動きが強まっており、今後の動向もiPhoneがカギを握る。また、世界的な電子部品需要は中国経済との連動も大きいいため、中国経済の動きにも注目する必要がある。さらに、中期的には、中国の半導体製造設備の拡充による供給過剰や技術のキャッチアップなど、供給側のリスクにも留意する必要がある。

今日の世界的な景況感の回復要因の一つは世界的なITサイクルの改善である。本稿で指摘したように、将来的な変動要因があるものの、2018年程度までを展望すると、回復サイクルは続くと思われる。それゆえ、日本はこうした恵まれた環境が続く期間において、企業マインドや生産性などの経済ファンダメンタルズをいかに改善できるかが問われる状況にある。

■ 図表：iPhone販売台数と日本の電子部品・デバイス工業の出荷



(注) iPhone 販売台数はみずほ総合研究所による季節調整値。  
 (資料) Bloomberg、経済産業省「鉱工業指数」よりみずほ総合研究所作成

1 「電子部品の出荷拡大は続くのか」(みずほ総合研究所『みずほインサイト』2017年2月27日)

当レポートは情報提供のみを目的として作成されたものであり、商品の勧誘を目的としたものではありません。本資料は、当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成されておりますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。また、本資料に記載された内容は予告なしに変更されることもあります。